

## 研究活動報告

## Project 1

黒澤 満

プロジェクト1の研究課題は、「国際共生の研究」であり、この1年はさまざまな研究報告を中心に活動を実施した。

まず「核兵器禁止条約の意義と課題」と題する黒澤満教授の報告は、条約の背景として人道的アプローチが採用されたことと核軍縮が停滞している事実を指摘し、次に条約作成プロセスの特徴として必ずしも核兵器国の参加を必要としないこととコンセンサス・ルールではなく多数決によることを挙げ、条約の内容としては、基本的には核兵器の保有の禁止と使用の禁止を含むもので、核兵器の廃絶や検証を含まないという特徴を指摘し、条約の目的は核兵器に悪の烙印を押し、世論を喚起することにより政府を動かす、長期的視点から核兵器を禁止しようとするものであることを明らかにするものであった。

次に「カンボジアにおける教育汚職—歴史的変遷に着目して—」と題する前田美子教授の報告では、カンボジアの教育現場では、教育省役人、校長、教員、児童生徒、保護者など多様なアクターを巻き込んで、不正行為が蔓延していること、代表的なものに、試験におけるカンニング行為、進級・進学に伴う賄賂の授受などがあることをベースに、カンボジアにおいて、1960年代より教育汚職がどのように蔓延してきたのか、また教育汚職を助長してきた要因は何かについて、現地調査をもとに考察した結果が報告され、カンボジアにおける教育汚職の特徴と、これまでの教育汚職防止策の失敗につ

いての分析結果も報告された。

第3に、「英国学派と国際共生」と題する幡新大実教授の報告では、そもそも国際関係論の英国学派とは何か、まず英国学派に属すとされる研究者たちの系譜と主要業績、日本における英国学派研究の先行研究、英国学派のアプローチの振り返りと、報告者自身の研究の英国学派の中での位置づけが報告され、国際システムの力学的実証研究、国際社会を形成する規範、制度、利害、価値観の背後にある言葉の解釈学、世界社会のあるべき方向性を特定する批判理論の研究など、国際関係をめぐる3つの存在論のそれぞれに応じた方法論を用いる英国学派の複眼的で多元的な手法から日本の国際共生研究が学ぶべきものを明らかにしようとした。

第4に、「ストーリー（もの語り）が持つ意味：平和ワークにおいてファシリテーションが何をなするか」と題する奥本京子教授の報告は、平和ワークにおける芸術アプローチ、そしてファシリテーションの交差点における、実践に基づく報告であり、人と人が家庭から国際社会までの多様な環境の中で生きていくために必要なコミュニケーションの多様性の中で、平和紛争学の領域から語られる「ファシリテーション・メディエーション」が置かれた位置を明らかにし、「ものを語る」として、芸術アプローチとして、ファシリテーション、特にサークルプロセスという手法を通じて、いかに平和ワークを可能にするかが検証された。

## 平和・人権研究会 (Project 1)

- ▶ 第61回 日 時：2017年10月18日 報告者：黒澤 満 大阪女学院大学教授  
タイトル：「核兵器禁止条約の意義と課題」
- ▶ 第62回 日 時：2017年11月28日 報告者：平井 孝子 大阪女学院大学大学院博士前期課程  
タイトル：「Child Labor and NGOs' Activities to Eliminate Child Labor in Sugarcane Farms of the Philippines」
- ▶ 第63回 日 時：2018年1月30日  
報告者：Lu, Deting 大阪女学院大学大学院博士前期課程  
タイトル：「Gender Inequality and the Prevention of Domestic Violence in Japan」  
報告者：Mallawaarachchi, Chamila Geethanjalee 大阪女学院大学大学院博士後期課程  
タイトル：「Role of Programme Makers in Building Peace and Social Cohesion in Sri Lanka」
- ▶ 第64回 日 時：2018年1月30日 報告者：前田 美子 大阪女学院大学教授  
タイトル：「カンボジアにおける教育汚職 —歴史的変遷に着目して—」
- ▶ 第65回 日 時：2018年5月9日 報告者：幡新 大実 大阪女学院大学教授  
タイトル：「英国学派と国際共生」
- ▶ 第66回 日 時：2018年5月30日 報告者：Shi, Yun 大阪女学院大学大学院博士前期課程2年  
タイトル：「Multicultural Education in Singapore and Japan」
- ▶ 第67回 日 時：2018年6月13日 報告者：奥本 京子 大阪女学院大学教授  
タイトル：「ストーリー(もの語り)が持つ意味：平和ワークにおいてファシリテーションが何をなするか」

## 研究会開催報告

## 大阪女学院大学国際共生研究所 公開研究会

2018年5月14日(月)には、関西で数少ない難民支援団体「RAFIQ 在日難民との共生ネットワーク」より竹垣仁繁代表をはじめスタッフをお迎えし、日本や諸外国の難民受け入れ状況をテーマに、これまでの難民申請裁判事例を用いながらワークショップを行いました。本学の学生を含めた30名以上の参加者がグループに分かれて活発に議論を交わし、終了後も質問の列ができるほど、充実した機会となりました。

